１．活動のテーマ

＜テーマ＞

動き　０歳児から５歳児
　～環境構成により引き出される移動運動と回避動作における空間認知および身体調整力の向上～

＜テーマの設定理由＞

乳幼児期の子どもにとって「動き」は、心身の発達の基盤となる重要な要素である。歩く・這う・押す・よけるといった全身を使った動きは、筋力や体幹の発達だけでなく、空間認知力や思考力、意欲の育ちにもつながる。本活動では、子どもが自ら動きたくなる環境を設定し、遊びを通して主体的に体を動かす経験を重ねることをねらいとして、

２．活動スケジュール

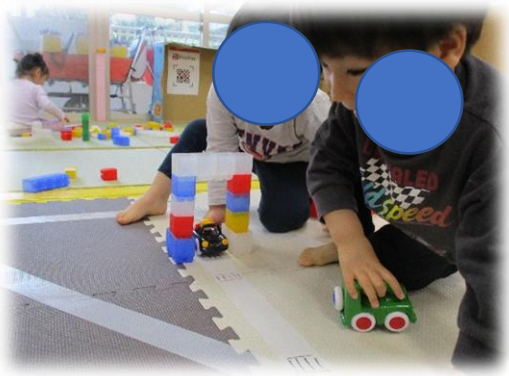
導入：保育者が車の玩具を提示し、自由に触れながら興味を引き出す。
展開：床にブロックを配置し、子どもが車を押して走らせながら、ブロックをよけて進む遊びを楽しむ。
発展：ブロックの位置を変えたり、友だちと並んで走らせたりしながら、動きの変化を味わう。
まとめ：遊びの後、保育者が子どもの姿を言葉にし、満足感や達成感につなげる。
最後に職員会議にて振り返りを行う。
６月から１２月まで活動を展開　異年齢交流や乳児クラスを中心に開催

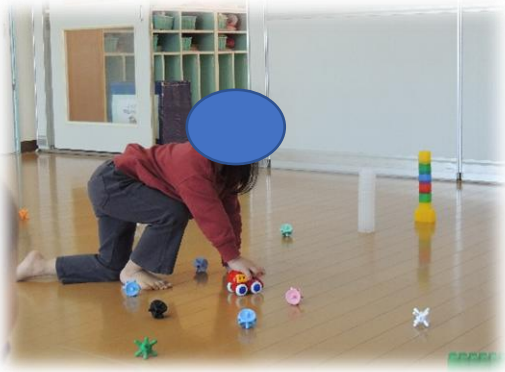
３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

準備した素材・道具・環境設定
車の玩具、カラーブロックを用意し、広く安全に体を動かせる室内環境を整えた。床にはあえて一定の間隔でブロックを配置し、子どもが「どこを通ろうか」と考えながら動けるよう工夫した。保育者がすぐに援助できる位置で見守り、安全面に配慮した。

・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり
子どもは腹ばいや四つ這い、膝立ちなどさまざまな姿勢で車を押し、「ブーン」と声を出しながら夢中になって走らせていた。ブロックにぶつかりそうになると、スピードを落としたり方向を変えたりする姿が見られた。友だちの車の動きを追いかけたり、同じ方向に並んで進もうとしたりするなど、互いの存在を意識した関わりも生まれていた。保育者が「上手によけているね」「こっちから行けそうだね」と声をかけることで、子どもは安心して挑戦を続けていた。





４．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

車を走らせる単純な遊びの中にも、体重移動やバランス調整、判断といった多くの運動要素が含まれていることに改めて気づいた。また、環境設定によって子どもの動きや関心が大きく変化し、友だちとの関わりも自然に生まれることが分かった。今後も、子どもが「やってみたい」と思える環境を工夫することで、主体的な動きや探究心をさらに引き出していきたい。